

# 概要説明

大西拓一郎

(「市民科学」プロジェクト代表・国立国語研究所)

## シンポジウム プログラム 諏訪の地理、信州の地理と市民科学

司会1：渡辺真由子

13：00-13：05 概要説明：大西拓一郎（「市民科学」プロジェクト代表）

13：05-13：10 日本地理学会からご挨拶：小口高（日本地理学会会長）

司会2：安室知

13：10-13：50 発表1 諏訪の地形と文化：小口高（東京大学）

13：50-14：30 発表2 言語地理学からみた諏訪：大西拓一郎（国立国語研究所）

14：30-14：40 休憩

司会3：大西拓一郎

14：40-15：20 発表3 「歴史時代の気候変動解明の鍵を握る580年間の諏訪湖御神渡資料」：

三上岳彦（東京都立大学）・平野淳平（帝京大学）・長谷川直子（お茶の水女子大学）

15：20-16：00 発表4 民俗地図で読む正月観の変遷：年取魚に注目して：安室知（神奈川大学）

16：00-16：10 休憩

司会4：渡辺真由子

16：10-16：50 発表5 信州の教育者 三澤勝衛先生：研究・教育実践から学ぶこと：北澤潔（長野県上田高等学科有前校長）

16：50-17：30 全体討議

- ・対面+オンラインのハイブリッド開催です。
- ・参加者の方は、録画への承諾が必要です。
- ・スタッフ以外による撮影、録画、録音は禁じます。
- ・本日の様子は、後日、webで動画配信する予定です。
- ・本日の資料は、後日、webで配布する予定です。

# 市民科学

- 市民科学とは  
大学や研究機関などに所属することなく実践される研究や研究活動  
市民科学、在野研究、シチズンサイエンス (citizen science) とも
  - 「科学」と言っても理系に限らず、さまざまな研究分野にわたる。  
天文学、方言学、民俗学、地理学、地学、史学、考古学…
  - 近年、注目されつつある。  
→荒木2016・2019、岩波書店編集部編2021、日本学術会議若手アカデミー2020
  - 日本語学・言語学  
特に方言学で顕著な事例  
日本方言研究会機関誌『方言の研究』  
6号（2020年）以降リレー連載「方言学を支えた人々」
  - 市民科学の特性  
長期性・継続性：制約が少ない。強い意志が求められる。  
境界があいまい：高い自由度。境界はアカデミアが作った。  
個人への異存：予算の保証がない。
- 

# 市民科学と長野県

- 顕著な事例が多い長野県、諏訪地方
- 方言学→本日のテーマのひとつ  
言語地理学、方言の分布研究  
牛山初男（1969）『東西方言の境界』信教印刷  
土川正男（1948）『言語地理学』あしかび書房
- 天文学：100年に及ぶ歴史→2022～2023年のシンポジウム・講演  
太陽観測：三澤勝衛、田中静人、藤森賢一、諏訪清陵高校…  
変光星観測：河西慶彦、五味一明、金森丁寿、宮島善一郎…  
2022年に諏訪天文同好会設立100周年
- そのほか  
地理学：三澤勝衛  
地学：諏訪教育会  
考古学：藤森栄一、宮坂英式…  
：
- 三澤勝衛とそこからの展開は、大きなテーマのひとつ

# 「市民科学」プロジェクト

- 人間文化研究機構 創発センター（広領域）基幹研究プロジェクト「横断的・融合的な地域文化研究の領域展開：新たな社会の創発を目指して」  
**国立国語研究所ユニット「地域における市民科学文化の再発見と現在」**
- 大学共同利用機関  
**人間文化研究機構**（国立国語研究所・国文学研究資料館・国立歴史民俗博物館・国立民族学博物館・総合地球環境学研究所…）  
自然科学研究機構（国立天文台・核融合科学研究所…）  
高エネルギー加速器研究機構（素粒子原子核研究所…）  
情報・システム研究機構（国立極地研究所、統計数理研究所…）
- 多分野にわたる「市民科学」の歴史・現在・未来に光をあてる。  
プロジェクト研究期間＝6年間（2022～2027年度）

---

## メンバー

- |       |                            |
|-------|----------------------------|
| 大西拓一郎 | 国立国語研究所、教授（言語地理学）          |
| 高田智和  | 国立国語研究所、教授（日本語学）           |
| 山田真寛  | 国立国語研究所、准教授（言語学）           |
| 中井精一  | 同志社女子大学、教授（言語地理学）          |
| 岸江信介  | 奈良大学、教授（言語地理学）             |
| 大西浩次  | 国立長野高専、教授（天文学・天文教育）        |
| 陶山徹   | 長野市立博物館、学芸員（天文学・天文教育）      |
| 渡辺真由子 | 茅野市立八ヶ岳総合博物館、学芸員（地球惑星科学）   |
| 衣笠健三  | 国立天文台野辺山宇宙電波観測所、特任専門員（天文学） |
| 早川尚志  | 名古屋大学宇宙地球環境研究所、特任助教（天文学）   |
| 野澤聡   | 獨協大学国際教養学部、准教授（科学史）        |
| 小口高   | 東京大学空間情報科学研究センター、教授（地理学）   |
| 安室知   | 神奈川大学、教授（民俗学）              |

## ロードマップ（予定）

- 2022年度 天文：諏訪天文同好会発足100周年  
シンポジウム：「長野県は宇宙県」の天文史100年と市民科学  
2022年11月18日 すわっチャオ
- 2023年度 前半：太陽・変光星  
講演会：諏訪の市民科学と天文  
2023年7月22日 すわっチャオ  
後半：地理学  
**シンポジウム：諏訪の地理、信州の地理と市民科学**  
**2024年1月20日 すわっチャオ**
- 2024年度 三澤勝衛からの展開  
－地理学・言語地理学（方言学）・民俗学
- 2025年度 太陽（国際会議）
- 2026年度 環境問題：開発、光害
- 2027年度 市民科学から起業（ベンチャー）まで

---

## 博物館展示

- 信州天文文化100年  
茅野市八ヶ岳総合博物館（2022年11月1日～2023年1月15日）  
長野市立博物館（2023年2月4日～4月2日）  
長野県伊那文化会館（2023年8月）  
関連プラネタリウム作品「トモエゴゼンは眠らない」
- 観測者たちを夢中にさせる星々の魅力  
茅野市八ヶ岳総合博物館（2022年6月30日～10月9日）  
関連プラネタリウム作品（作成中）
- **ミニ展示：知らなかった！諏訪ことば〈開催中〉**  
**茅野市八ヶ岳総合博物館（2023年12月26日～2024年1月31日）**

# オープン化

- プロジェクトの成果をできる限りオープンに
- シンポジウム（本日の動画・集録）、展示、プラネタリウム作品の公開
- Webサイト「市民科学」プロジェクト  
<https://shiminkagaku-pj.org/>



## ニューズレター

- 1号  
市民科学とプロジェクトの解説  
（大西2022）  
諏訪天文同好会史（渡辺2022）  
展示概説（陶山2022）
- 3号まで刊行（2024年1月現在）
- 本日会場にて配布



# 文献

荒木優太（2016）『これからのエリック・ホッファーのためにー在野研究者の生と心得ー』東京書籍.

荒木優太（2019）『在野研究ビギナーズー勝手にはじめる研究生活ー』明石書店.

岩波書店編集部編（2021）『アカデミアを離れてみたらー博士、道なき道をゆくー』岩波書店.

牛山初男（1969）『東西方言の境界』信教印刷.

大西拓一郎（2002）「「市民科学」プロジェクトについて」『市民科学ニューズレター』00、1-3.

陶山徹（2002）「巡回展「信州天文文化100年」」『市民科学ニューズレター』00、6-7.

土川正男（1948）『言語地理学』あしかび書房.

日本学術会議若手アカデミー（2020）『シチズンサイエンスを推進する社会システムの構築を目指して』  
日本学術会議.

渡辺真由子（2002）「諏訪天文同好会100年を紐解く」『市民科学ニューズレター』00、4-5.